



彩の山

埼玉支部報 第 34 号

《題字 松本敏夫》

【目 次】

2021年度11月からの予定	事務局	1	ふれあい登山について	高橋 努	12
山行報告「四季の山 夏山(岩手)」	中嶋信隆	2	日本全国温泉巡り(第5回)	早川好治	14
岩手山行「真昼岳・女神山」にまつわる			山の本棚シリーズ	小原茂延	15
学童疎開の思い出	吉田寛治	4	「秋山・冬山のワンポイント		
山行報告「四季の山 秋山(北アルプス)」			アドバイス」	平川陽一郎	18
◇唐松岳～五竜岳◇	古川史典	6	新入会員 自己紹介	林 信行	19
山岳古道調査PJ進捗報告	松本敏夫	9	事務局からのお知らせ	林 信行	20
安全登山講習会に参加して	本村貴子	10	編集後記	橋本久子	21

2021年度 11月からの予定

事務局長 林 信行

11月

- 3日(水) 大久保春美記念 第11回ふれあい登山 日和田山～物見山
- 6日(土)～7日(日) 月例山行 御在所岳・鎌ヶ岳
- 11日(木) 平日山行 箱根 明神ヶ岳・明星ヶ岳
- 28日(日) 第9回大高取山自然観察会

12月

- 11日(土) 忘年山行 飯能 柏木山

1月

- 22日(土) 安全登山講演会 埼玉県山岳救助隊講演、演題未定 於：埼玉会館
- 29日(土) 新年山行・新入会員ウェルカム山行 長瀬アルプス

2月

- 26日(土)～27日(日) 四季の山・冬山 100名山 谷川岳

3月

- 12日(土) 月例山行 筑波山

4月

- 10日(日) 埼玉支部総会・懇親会

※ 支部総会は4/9(土)開催予定でしたが、当日埼玉会館は都合により全室予約出来ず翌日に変更しました。

※ 各行事の詳細についてはホームページ、一斉メールでご連絡致します。

四季の山 夏山（岩手）「真昼岳・女神山」報告

副支部長 中嶋信隆

埼玉支部夏山山行岩手編 結果報告

実施日：2021 年 7 月 9 日（金）～11 日（日）

7 月 9 日（金）埼玉支部夏山山行参加者は午後 5 時に現地宿泊先岩手県湯川温泉「高繁旅館」に集合しました。

車で参加者は 3 グループ 9 名、そして新幹線で北上駅に集合し高繁旅館マイクロバスでの参加組は 8 名、合計 17 名（内女性 4 名）が今回の夏山参加者です。

18 時中広間での椅子席夕食を前に全員が源泉かけ流しの入浴を楽しんだのでありました。18 時よりまずはビールで、山行委員高橋さんより乾杯のご発声をいただき明日からの山行に影響しない程度に山菜料理、地酒を大いに楽しみましたが、中にはおいしい地酒の数々について進んでしまった方もいたようです。



翌 10 日、東北百名山の一つ、今回の山行の主目的である「真昼岳」1,059m を目指しました。午前 6 時過ぎ朝食、その前に温泉朝風呂をほぼ全員が楽しみ食欲旺盛、あとは天候だけです。

午前 7 時、山行の支度を済ませて玄関前に集合。

残念ながら雨具を着用してのスタートとなりましたが、1 時間の登山口までの旅館マイクロバスの車窓からは一時的に晴れ模様となり期待を持たせてくれたのであります。

町役場商工観光課との数回の林道、登山道の刈払い交渉のせいか林道の雑木、雑草は見事に刈払い終了。

また、登山道も 7 合目まではきれいに整備されて雨がなければ快適な山行であったことと思われました。

午前 8 時 10 分バスを下車、そのころにはものすごい雨ふりで不安の中で出発しました。

途中、稜線に出るまでは強く降ったり、小降りになったりの繰り返しでしたが草刈りの見事さに快調に歩を進めました。約 2 時間で稜線に出て、まだ頂上はガスの中で見えませんが、時々頂上らしき影を見せてくれました。しかしながらまだまだ 1 時間以上はかかりそうな感じであります。



7 合目を通過した時点で刈払いの器具がおいてありここまでかと残念ながらここから山頂までは登山道もわからない箇所もあり、困難をきわめました。

そして 12 時ついに山頂到着、残念でしたが 1 名と付き添い 2 名は頂上直下で先に下山となりましたが、残る 14 名は山頂に立ちました。



現地 2 日目は最終日です。

ここで初めて本隊を 3 つの班にわけて

- ① 女神山登山班 11 名
- ② 秀衡街道（黄金の道）トレッキング班 5 名
- ③ 温泉湯治班 1 名

で、2 日目の活動を行いました。天候は雨もパラパラ程度で今日は快適に登れそうと思われました。女神山班は稲越リーダーの元、12 時過ぎに予定より早く登山口到着でバスを待つほどでした。予定通りの時間でバスに乗ることができ、帰って解散まで温泉にゆっくり入ることができたようであります。

逆に、秀衡街道班は午前 9 時に現地ガイドが 3 名も到着し驚いた次第です。

10 時街道出発点到着、出発しましたが、通常ならば約 8 キロ 3 時間のコースです。

街道とは名ばかりで徐々に登山道も見えなくなり、背をこす藪こぎとなり大幅な到着の遅れで 3 時間の予定時間が 5 時間を超えてしまいました。

正に往時の街道はこんな感じであったのかと想像させられます。

旅館到着時には車班は東京までの帰路時間を考えて既に出発してしまった後でした。

わずかの差で最後の挨拶ができなかったことは残念です。

夏山山行は雨と藪、雑草に苦しめられつつも無事予定活動を全て終えることができました。

電車組の皆さんの笑顔を見て私は安心しました。参加してくれました皆さん本当にありがとうございました。

また、チャンスがありましたら東北の旅を計画してみたいと思っております。

雨がまた激しくなり、昼食も早々に下山となり、記念撮影を行い最後の力をふりしぼり下山です。

参加者全員 17 名、苦勞して登山口駐車場の旅館マイクロバスに到着、一路暖かい温泉の待つ宿泊先に向かいました。

夕食は終戦時にここ湯川温泉に疎開をしていた吉田会員に乾杯の音頭を取っていただき思い出話も山と疎開で盛り上がり埼玉支部夏山山行のメインが終了いたしました。

← 真昼岳 山頂



女神山 山頂



白糸の滝

「四季の山 岩手山行」にまつわる学童集団疎開の思い出

会員 吉田寛治

今日は8月15日、この思い出を書き始めました。

8月15日の終戦の玉音放送を聞いたのは東京に住んでいた小生には新幹線も高速道路もない時代の東北は遠い遠い所で、その遠い遠い岩手県と秋田県の県境の山の中の湯川温泉でした。小学4年生だったので放送の内容は良く分かりませんでした。戦争が終わりやっとうちの両親の元に帰れるのかと思いました。学童集団疎開でこの地に疎開をしていたからです。

自然保護委員会が行った4月の高尾グリーンセンターでの森づくり研修会の夜の懇談の時山行委員の中嶋さんから岩手県の山に行く話が出ました。その中で宿泊先が湯川温泉と聞いてびっくりしました。直ぐに山行の参加を申し出ました。

「湯川温泉」これは何と小生が小学生3年生(1944年・昭和19年・77年前)の時学童集団疎開をした場所ではありませんか。学童集団疎開といっても今は死語になっていて若い人は知らないかもしれませんが、太平洋戦争中の末期に都会には児童は危険だということで小学校3年生以上を対象に学校のクラス単位で地方の田舎に集団で疎開をしてその地で勉強をしました。別に縁故疎開というのがあって地方に親戚がある人はその親戚をたよって疎開をしました。縁故疎開出来ない者が集団疎開をしたわけです。

小生の学校はスカイツリーで有名な墨田区業平にある業平小学校(当時国民学校)です。業平とう地名は京都から流されて隅田川を下る際に読んだ「名にし負はば いざこと問はむ 都鳥 わが思ふ人は ありやなしやと」京都に残してきた恋人を思って歌った平安時代の歌人在原業平(光源氏のモデルともいわれている)がこの付近で詠んだのに因んで付けられた土地の名前と聞かされています。近くに言問橋もあります。

その業平小学校から最初に疎開をした場所は千葉県の養老の滝で有名な近くの大正寺というお寺でした。疎開にはクラスの担任の先生と寮母さんと呼ばれた児童の身の回りを世話してくれる人(当時お姉さんと呼んでいましたが)が一緒でした。この大正寺での思い出は何といってもシラミ取りです。シラミといっても今の人は現物を見た人は少ないと思います。お寺の本堂の広い回り廊下で日なたぼっこをしながら寝間着の縫い目の裏にびっしりと一列又は二列付いた卵(直径1ミリ位で乳白色をしている)を両手の親指の爪の間でピッシ、ピッシと潰して行くのです。時には血を吸ってお腹を黒くした親シラミがいます。子供同士で喜々としてその作業をしていたようにも思います。

何しろ小学校3年生です。親が恋しくなって夜になると逃げだす者がいます。その子を探しに皆で駅の方に行きます。駅か駅の手前で大概見つけられますが常習犯の子がいていつも騒ぎを起こしていたこともありました。ヤマザクラの黒紫の小さなサクランボもよく食べました。口を紫にして手に付いた汁をズボンでこすると落ちません。寮母さんに叱られたものです。

3月10日の東京大空襲の夜には東京方面の空が赤く染まっていました。翌日には偏西風に乗って東京湾をはるばる超えてきた黒い燃えカスがお寺の境内に散乱していました。一夜にして10万人が死んだという東京の惨状を知る由もありませんでした。8月6日の広島原爆でこの日に亡く



なった人は5万5千人と聞いています。いかに東京大空襲が悲惨であったかはあまり語られません。この時クラスの中の何人かの家族が亡くなっていました。業平は大空襲地の真ただ中です。終戦後新聞で当時の焼け跡の写真を見ましたが鉄筋のビルがポツン、ポツンと残っているだけのまったくの焼け野原でした。小生の家族は江戸川を越すと千葉県になる江戸川区小岩の伯父さんの家に身を寄せていて難をまぬかれました。

しかしこの千葉県の疎開場所も茂原海軍航空基地に近く危険ということで再疎開ということになりました。その疎開先が遠い遠い岩手県と秋田県の県境に近い地図で見ても日本海と太平洋の真ん中にある山の中の湯川温泉だったということです。千葉県の各地に散らばっていた業平小学校の学童が集められ長い列車に乗って集団移動しました。

この移動中に感動的な光景がありました。いまでもまざまざとその光景は思い出されます。その場所が何処なのかわかりません。空襲警報で列車が停まり車内は真っ暗です。時間もわかりません。進行方向右側に座っていたので窓の外を見るとすぐ線路の向こうがすぐ波打ち際です。波がバシバシと寄せています。と水平線のかなたから真丸い大きな黄色い月が登ってきました。穏やかな海に光の帯をキラキラと輝かしていました。その大きな真丸い黄色い月と輝く海がいまでも頭の中に焼き付いています。その後どの様にして下車駅に行ったのか何も覚えていません。下車駅は現在の北上線「ほっとゆだ駅」です。疎開当時は陸中川尻駅と呼ばれていました。今は駅の構内に温泉があります。駅から正面の砂利道をとぼとぼと歩いて行ったのは記憶にあります。

駅から一里（4km位）1時間位の道だったでしょうか、湯川温泉で滞在した宿の名前は憶えていません。記憶にあるのは川に沿って道路があってその道路に沿って温泉街がある一番奥の宿であったこと、温泉街の入口近くには学習院も疎開に来ていたということでした。宿での記憶は寮母さんに島崎藤村の椰子の実の歌を教わったこと、お風呂に行くのに長い下りの渡り廊下を歩いて階段を降り直ぐそばを川が流れる場所にあった温泉だったこと、掘った松根を背負子をしょって山の中に取りにいったこと（松根とは松の根のことでこれから航空燃料を作り出すとのことでした）、そばを流れる川（鬼ヶ瀬川という）で水遊びをしたこと、「湯川寮の歌」という名の寮歌があって歌った覚えはないのですがどういう訳か手元に歌詞が残っています。そして歌えるのです。酔いに任せて夜の懇談で歌ってしまいました。歌えるのは不思議なことです。



玄関を出ると（現在は裏口になっている）広い舗装された広場があったこと、この広場に終戦の日の8月15日に全員が集められ玉音放送を聞いたこと、現在は近代的なビルに建て替えられ昔の面影はありませんがこの広場に立ってみてここは玉音放送を聞いた場所だという確信がわきました。さらに宿の先の山のほうに行ってみました。トウモロコシやキュウリ、トマトなど盗み食いをした（もう時効？）と思われる山間の小さな畑も今は何も作られてはいませんでした。それらしき場所もありました。ワラビやゼンマイも生で食べました。食料不足は育ち盛りの子供たちには耐えられなかったのでしょう。しかし宿の女将や主人に聞いてみてもこの地に疎开学童が来ていたということとは聞いていても高繁旅館に疎开学童が宿泊していたということはまったく伝え聞かされていないようです。その当時の資料を見て昔を思い出すのを楽しみにしていた小生はガッカリでした。資料

らしき物は全くありませんでした。しかしこの場所にあった旧高繁旅館であることは裏の広場に立って間違いないと確信しました。

77年の歳月をつくづく感じました。歴史はこのようにして忘れ去られていくのでしょうか
以上お粗末な学童疎開物語でした。

四季の山 秋山「北アルプス（唐松岳～五竜岳）」

山行委員 古川史典

北アルプス 唐松岳（2695.9m）五竜岳（2814.3m）報告 グレード☆☆☆

今回は大きく2つあり、1つ目はコロナウイルスで直前まで緊急事態宣言が發布されておりそれがいつまでか。2つ目は台風16号の発生でその進路では上陸もあるとの報道があった。そのような状況下、緊急事態宣言は9月末で解除、台風16号は前日に関東沖を通過しとりあえず回避された。しかしコロナウイルス防止対策は、昨年同様埼玉支部ガイドラインに従い「三密を基本」に2班に分け前日から検温も実施しました。

天気は、1日目曇り晴れ雨と目まぐるしい中、唐松岳に登頂し難所の牛首経由で五竜山荘へ入ったその直後大雨となりひやひや、2日目少し風はあったが秋晴れの中、五竜岳に全員が登頂できた。頂上からは白馬、針ノ木、剣、立山、薬師、槍、穂高と北アルプスの山々と遠く富士山・南アルプス・秩父山地も望むことができ、紅葉も2500m付近で色付きトンボも飛んで秋を感じることができました。下山は、紅葉の遠見尾根を降り神城経由白馬インフォメーションで解散となりました。今山行においては、参加者9名の協力と支部の支援、特に担当者の方々の努力で「安全登山」がなされ無事終了できたことに感謝します。

1、日程 10月2日（土）～3日（日）一泊二日

2、コースタイム

2日（土）7：30 八方ゴンドラ駅→8：05 八方池山荘→八方尾根→11：23 唐松岳頂上小屋

12：00 唐松岳頂上→12：30 唐松岳頂上小屋→13：00 牛首→15：45 五竜山荘泊

3日（日）6：30 五竜山荘→8：00 五竜岳→8：50 五竜山荘 9：30→遠見尾根

→14：30 アルプス平→ロープウエイ・タクシー→15：30 白馬インフォメーション解散



唐松岳 山頂



五竜岳 山頂

四季の山 秋山（北アルプス）参加者から一言

《秋を満喫》

今回の山行のハイライトは、やはり五竜岳山頂からの景色でしょう。目線から上に雲一つなく、素晴らしい眺望。いつまでも見ていたい、そんな気持ちでした。遠見尾根の下の間も、秋を満喫です。当初はこの山行に申し込んでおらず、お誘いを受けて参加したのですが、大正解でした。

素晴らしい山行をご一緒していただいた仲間に、感謝です。

青木 正



《山域の繋がりを知ることが出来ました》

昨年度の爺が岳と鹿島槍ヶ岳に続き、唐松岳と五竜岳の山行に参加できて、山域の繋がりを感じることができ嬉しかったです。そして今回のコースのどの部分も印象に残りました。八方から唐松岳への稜線の美しさは、とても心地よいものでした。唐松岳から五竜山荘への稜線は、岩稜帯の緊張感と、強い風、時間や体力の読みなど勉強になりました。五竜岳からの景色は未体験の剣や立山、そして周囲に繋がる山々と圧巻の眺望でした。

朝井 紀久子



《唐松岳五竜岳山行を終えて》

SL としての初めての山行でした。CL の古川さんからたくさんのお話を学ばせていただき、SL の朝井さんにはお世話になりました。とにかくお天気に恵まれ素晴らしい景色を見ることができ、幸せなひとときを過ごすことができました。

生田 詳子



《堪能した 2 日間》

毎年、実家に帰省時は、好天を選んで眺望と花を楽しむために、八方尾根から唐松岳登山、五竜・遠見尾根界限を探访しています。今回、穏やかな唐松岳から荒々しい五竜岳に縦走する山行に参加し、また違った Photo の楽しみを満喫しました。過去の山行経験の中でも稀にみる好天に恵まれ、参加された方共々、北アルプスを堪能しました。

稲越 洋一



《再びの後立山》

募集文に「体力・気力に自信のある方」とあった。脊柱管狭窄症手術後の再発なのか、この3年近く近郊の低山を介護付き(笑)で歩いていた私に、気力はともかく体力に自信など有ろう筈もない。ただ7年前に息子とテント縦走した記憶が残っただけ。そんな不安の中、参加させて頂いた。長時間の行動なので足腰が持つか心配もあったが、CL・SLの方の適切な指導と同行の皆さんの助けのおかげで、素晴らしい景色の中最後まで歩き通すことが出来ました。皆さんに感謝です。有難うございました。

加藤 満



《10月支部山行、唐松岳、五竜岳に参加して》

八方ゴンドラ駅から、遠見尾根へ下だるルートでした。台風通過後の曇り空の中、白馬三山を横目に眺望しながら唐松岳へ登頂、山頂から見た紅葉は秋の山を感じられた素晴らしいものでした。唐松岳からの稜線歩きは広大な景色に感動しながら気持ちよく歩けました。難所の牛首、五竜山荘から五竜岳山頂までは鎖場があり高度感から怖さを感じましたが、サポート、ご指導いただき無事安全に登頂することが出来ました。山頂の眺望と山の迫力は思い出に残る五竜岳になりました。今回こうして安全に楽しく山行が出来たのも皆様方の努力のお陰だと心から感謝しております。素晴らしい山行に参加させて頂きありがとうございました。

高橋 和美



《久しぶりの五竜岳》

何年ぶりかの五竜岳山頂に登りました。前回は、越谷市山岳会の音頭で遠見尾根からのピストンでしたが、今回とは全くの逆で五竜テレキャビン、遠見尾根、山頂です。当日の山頂付近は雲の中、あげくに頂上近くでの雷に遭遇。そんな訳で天候への期待は並々ならぬものがあり、それが見事に当たってくれました。思わず一人、早朝の山頂を仰ぎ見て万歳を叫んでいました。皆さんのお話の通り、富士山、穂高、槍ヶ岳、鹿島槍、剣そして下は雲海の中と素晴らしい絶景を見せていただきました。秋山とはいえ、もう少しで雪に埋もれてしまう地域ですが、最後の満足を与えていただき、幹事の皆さんお疲れ様そしてありがとうございました。

中嶋 信隆



《昨年に続いて？また自信を！無くしました》

唐松岳山荘の前から頂上に向かう道を歩き始めてすぐに、両足太腿：大腿四頭筋が痙攣して、硬くなり！足を動かせなくなりました。何時もの 68（芍薬甘草湯）を飲みましたが、なかなか回復しません。風が冷たく、冷えた事が原因と思われます。この先が この日のハイライト！！の”牛首”。歩けるのか？不安でしたが、無事に通過出来て良かったです。この日は暑くなると、思い込んでいましたが、空気はもう秋でした。注意が足りなかったと、反省。また、皆さんにお世話になりました。山はもう秋になっていました。ナナカマドが真っ赤でした。私だけ勘違い。

東 洋子



《五竜岳に登って》

初めての五竜岳は、大学 1 年夏合宿で剣岳からの縦走。登頂の印象は全く無く、記憶には五竜山荘のキャンプ場に泊まり白岳側に鍋を持ての水汲みぐらいです。その後、無雪期積雪期を含め何度も遠見尾根経由で頂上へ登ったが一番の思い出は、今は無い遠見小屋での冬の留守番と、元旦に先輩と登った時の白岳の斜面から見た「初日の出」は今でも鮮明に覚えています。山行で頂上を踏む一番の喜びは「良き仲間と共に」、これに尽きますね。皆様、ありがとうございました。

古川 史典



埼玉支部・山岳古道調査プロジェクト進捗報告（令和 3 年 9 月）

副実行委員長 松本敏夫

日本山岳会創立 120 周年記念事業として、全国山岳古道調査「日本の山岳古道 120 選」が実施されておりますので、埼玉支部の活動状況を報告します。第一次調査対象古道として埼玉支部からは「十文字峠越え」及び「雁坂峠越え」が選出されております。既に、日本山岳会・山岳古道調査 PT と信濃支部との Zoom 会議において、「十文字峠越え」の長野県側は信濃支部が担当することになりました。

一方、「雁坂峠越え」の山梨県側の調査は、山岳古道調査 PT と山梨支部との Zoom 会議で、山梨支部から埼玉支部に古道に関する資料提供を頂けるとのことになっております。また、東京多摩支部担当の「日原秩父往還と富士信仰の道」が第一次調査対象古道に選出されたことから、埼玉支部から東京多摩支部に必要な応じて資料提供（浦山～大日堂～仙元尾根～仙元峠）などの協力が予想されます。現在、埼玉支部から山岳古道調査 PT に第二次調査対象古道として、「三峯神社の表参道及び大陽寺への参詣道」及び「奥武蔵古道を巡る『修験の峯入りみち』及び『峠道』」を推薦しております。9 月現在、新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言が発令中であり、支部の公式調査は予定されておりませんが、秩父往還の下見調査として、6 月に「二瀬ダム（大久保）から宮平」、7 月に「二瀬ダム（麻生）から栃本」を、奥武蔵古道の下見調査（個人山行）として、9 月に「子の

権現（表参道から吾野口）」を実施し、各調査報告は作成済みです。

奥秩父・奥武蔵・外秩父の歴史・文化・伝説と共に、豊かな自然に恵まれた埼玉の山岳古道を調査し記録に残すことは、支部設立の趣旨にも一致した活動として極めて意義深いものと考えられます。感染防止対策を念頭に、コロナ禍を避けるためにも、現状では山岳古道調査プロジェクトの実行委員の活動が主となりますが、出来るだけ少人数で、古道を適時区間に区切って調査・報告を実施し、山岳古道調査プロジェクトとして資料を蓄積することが望まれます。また、下見調査報告書はまだ一般公開されておられないのが、事務局長宛てに報告書の提供依頼を提出いただければ、メール等に添付して送付させていただくことは可能と考えております。

また、古道調査を企画する際は、登山計画書を作成し、プロジェクトメンバー及び会員に提示して参加者を募集すると共に、実行委員長（支部長）、事務局長、分担古道のリーダー及び副実行委員長に登山計画書の提出をお願いいたします。山岳古道調査プロジェクトは日本山岳会創立 120 周年記念事業ですので、できるだけ多くの会員の皆様に調査活動に参画いただき、歴史と文化や伝説に深く根差した埼玉の山岳や峠道を楽しむきっかけとしていただければ幸いです。



二瀬にて



二瀬ダムにて



子の権現にて

安全登山講習会へ参加して

準会員 本村貴子

梅雨入りしそうな空模様が続く曇天の 6 月 5 日。

飯能・天覧山～多峯主山にて開かれた安全登山講習会へ参加致しました。

飯能駅南口に集合し、受付～検温～手指の消毒をしている間に小雨が降りだして雨具をつけての出発となりましたが、登山口へ到着する前には運良く上がりました。

講師の埼玉県山岳・スポーツライミング協会、遭難対策委員長瀬藤武氏のあとをついて、登山口まで街中を歩く途中も気を緩める事は出来ません。曲がり角や途中の諏訪八幡神社などで、突然に現在位置・目的地迄の距離を確認するように指示が飛んで来るのです。

メジャーが無くて普段から指先の長さを把握しておくなど、山登り以外にも使える知恵を教授して下さいました。また、神社境内で目的地天覧山の方角を確認したりと、普段からの地図読み練習の大切さを感じました。

獣道の見分け方、ピバーク時のツェルトの張り方、三角巾や包帯方法、スプリントロール利用法…普段折り畳んだままのエマージェンシーシートを実際に広げてみたのは良い経験でした。

講師から幾度となく【リスク管理】や【最善の判断】というワードが発せられました。

常に非常事態を想定した準備をし、その場での最善の判断を下す…日頃から『安全登山』は始まっ

ているのです。



この難しい状況下、講習会を開催して下さった会スタッフの皆様に感謝したいと思います。コロナ禍、単独やビギナーの登山数は増えていると聞きます。まん防や宣言でイベントの中止が相次ぎますが、この様な時こそ安全登山講習会が意義を持つと感じました。

講師によるご指導もさることながら、講習を運営する『山の先輩方』の何気ない一言や体験談も大切な情報です。解散時に委員長より『本日が雨で無くてよかった。参加の皆さんが風邪を引いたら大変だから』とお言葉がありました。パーティーを思い遣る事も『安全登山』と、有り難く感じながら帰途につきました。



ふれあい登山について**ふれあい登山担当 高橋 努****大久保春美記念ふれあい登山に参加しよう！**

埼玉支部ふれあい登山は今年で第 11 回目になります。大久保春美さん（元日本山岳会副会長・埼玉支部長）の立案で支部設立の翌年の 4 月に第 1 回が開催されました。コースは日和田山から物見山で、障がい者 19 名、付添の方 15 名、埼玉県障害者スポーツ協会関係者 6 名、日本山岳会埼玉支部員 23 名、合計で 63 名の参加者でした。この時は、初めての障がい者の皆さんとのふれあいで、やや緊張気味でしたが「余計な気遣いはしないで普段通りでいいのよ」の大久保さんの声で肩の力が抜けたのを覚えています。あれから 10 年、埼玉県のあちこちのハイキングコースでふれあいを楽しんできました。多くの埼玉支部会員が参加されましたが、皆さん、毎年楽しみにしておられ、当日はニコニコされています。



残念ながら大久保さんは 2018 年 1 月にご逝去されましたが、ふれあい登山は、もうすっかり埼玉支部に根付きました。

今年は東京パラリンピックが開催され、多くの競技をテレビで観戦し、驚いたり、感動したりしました。大久保さんは 2008 年の北京パラリンピックの団長（初の女性団長）を務められました。選手団の先頭で大旗を振りながら行進する姿はご立派でした。ここにふれあい登山のルーツがあると感じます。（ちなみに北京パラの参加選手数は 163 名、メダル数は 27 個、東京パラは選手数 254 名、メダル数 51 個）

昨年からコロナ禍の影響で開催を秋に変更しました。今年は第 1 回と同じコースで行います。秋晴れの下で晴れやかな笑顔が見られたらいいなと期待しています。この支部報「彩の山」がお目に留まる頃には、恐らく青空と良い笑顔が思い出になっていることでしょう。

写真は第 7 回天覧山・飯能河原での満開の桜の下での笑顔の大集合です。



ふれあい登山の経緯

回数	年度	目的地	参加者合計	障がい者	付添	JAC関係者	協会その他
1	H23	日和田山・物見山	63	19	15	23	6
2	24	鐘撞堂山	56	11	13	29	3
3	25	官の倉山	80	28	24	26	2
4	26	仙元山	126	48	45	30	2
5	27	宝登山	115	43	37	34	1
6	28	大高取山	56	12	11	28	5
7	29	天覧山・多峯主山	91	25	26	31	9
8	30	弓立山	74	21	21	28	4
9	31	加治丘陵	76	21	19	31	5
10	R2	あさひ山展望公園	69	20	17	27	5

日本全国温泉巡り（東京都）第 5 回**会員 早川好治(泉舟)****【東京都】**

奥多摩湖の先から登る雲取山の山頂の展望はすばらしい。

下山後、湖の反対側にある三頭山の近くに露天風呂のある数馬蛇の湯温泉「たから荘」に泊まれば、25種類の美味しい山菜料理が待っています。

また山梨県側なら三条の湯に入れるので快適な登山ができます。

伊豆七島は温泉の宝庫です。

伊豆大島の三原山は中学校を卒業した春休みに初めて一人で登った思い出の山です。

ラクダに乗ったのも初めてです。勿論温泉もあります。

八丈島温泉巡りのとき脱皮したばかりの伊勢海老を食べましたが、極上の味でした。

島の中に湧く濁り湯の末吉温泉みはらしの湯は、ひょうたん型の露天風呂から雄大な太平洋が一望でき最高の気分に入れます。

また裏見ヶ滝温泉の濁り湯の露天風呂は、ジャングルみたいな中にあり、森林浴が味わえ心地良いです。

八丈島で最古の素朴な洞輪沢温泉は海岸沿いにあります。

また檜立向里温泉は濁り湯の露天風呂です。

他にも中之郷温泉や中之郷尾越温泉があります。

式根島は海中温泉です。足付温泉は海水浴みたいですけど、濁り湯の地氈温泉は、たくさんの巨岩の間に湧出していて楽しめます。

松が下雅湯は濁り湯の露天風呂です。

神津島や新島にも温泉が湧いています。

上野動物園の裏側にある上野池之端温泉「水月ホテル鵜外荘」は、都内認定第1号の温泉で、中庭に森鷗外の旧宅が保存されています。

ソメイヨシノ発祥の桜の木がある駒込の西福寺の近くには、東京染井温泉が湧いていて露天風呂もあります。

青梅鮎美の湯が湧くかんぼの宿に泊まり、昭和レトロ調の青梅の街歩きも楽しいです。

深大寺で国宝の仏像を見学し、植物園を散策し、美味しい蕎麦を食べて、湯守の里で温泉入浴すれば快適な一日を過ごせます。

東京駅の大手町のビルの地下にもSPA大手町温泉があり入浴できます。

大田区には黒湯又はコーラ色と呼ばれる温泉が数ヶ所湧出しています。

山手線内で登山気分を味わうなら鉄道唱歌に出てくる港区の愛宕山が有名ですが、早稲田大学のそばには箱根山があり、近くにある漱石山房記念館に寄れば、夏目漱石が大の温泉好きだったことが分かります。



住吉温泉みはらしの湯

「山の本棚」シリーズ

会員 小原茂延

山の本棚シリーズ【別 稿】



「山岳」第 66 年 追悼より

没後 50 年 回想の深田久弥

会員 小原茂延

深田久弥が茅ヶ岳登山中に急逝してから 50 年になる。

越後支部の高辻謙輔氏書いた「日本百名山と深田久弥」を引用・略記させて頂くと、1971(昭和 46)年 3 月 20 日一行 6 名は甲府で山村正光と合流し葦崎下車、駅前で昼食後、七里ヶ岩の台地上がり新府城址に寄って穴山鉱泉の能見荘に夕方入る。翌 21 日の朝、深田はジャンパー姿、ハンチングを被り南天のステッキを手にしている。よもや 3 時間後に起こる悲劇など全く予想もできない。メンバーは伊倉剛三、近藤恒雄、坂本桂、藤島敏男、村尾金二、山村正光の諸氏らと 7 人であった。10 時 55 分頂上まで 15 分の所で大休止、深田はアンパンを食す。頂上に向け歩き出し、11 時 20 分頃に倒れたという。脳溢血で帰らぬ人となった。

深田最後の登山

蛇峠山(1664m)を訪ねる

長野県下伊那郡阿智村

深田の紀行文は日本経済新聞に掲載された。(長男森太郎氏の当時勤務先)

・2012 年 11 月川口の自宅から約 350 km を長駆して治部坂峠から林道を利用して短時間で頂上へ、南・中央アルプスの絶景を愉しんだ。
二等三角点(点名 蛇峠)

10 数年前に、加賀市の「深田久弥山の文化館」に深田の登山リストがあるか尋ねたところ無いとの回答、急逝した茅ヶ岳は頂上の少し手前だったので、最後に登った山ではない。偶々読んでいた資料が示すのは深田が藤島敏男らと行っていた避衆登山、これは暮れから正月に掛けて行うこと往々と聴いていたので、昭和 45 年末から正月のことを探してみると、南信濃の治部坂高原から蛇峠山・大川入山を目指していた。大川入山は正月の酒も手伝ってラッセルに音を上げ断念、前日登山の蛇峠山が久弥の踏んだ最後の山となった。信濃毎日新聞社刊行の「絶景の山」に取り上げられており、中央・南アルプスの好展望台である。

戦国時代には烽火台であった由、山容もその姿を呈する。

山恋の碑



深田久弥が逝去した 3 年後の昭和 49 年 4 月郷里の生家に近い江沼神社に「山恋の碑」が建立された。未亡人の志げさんが山の文芸誌「アルプ」に書いているように、越後の山仲間招かれた旅から帰って寛いでいた折に、忘れないうちにと久弥が書き付けた四行詩である。

山の茜を顧みて

一つの山を終わりけり

何の俘(とりこ)のわが心

早も急かる次の山

この詩は昭和 4 2 年 11 月越後の未丈ヶ岳行の折に作った。

山の本棚シリーズ 2



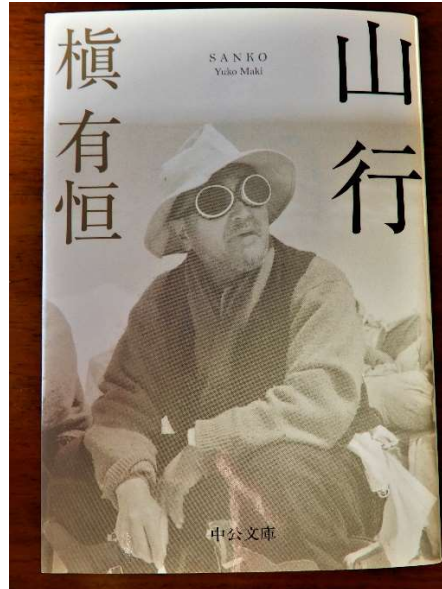
年譜 (槇有恒全集 略年譜)

- 1894 槇武の次男として仙台に生る
その後、幼少時を神戸、京都
母千年と摩耶山に登る。小学
4 年、再び仙台に移る。
- 1906 仙台二中に進む。この頃、富
士、阿蘇、羊蹄山、白馬岳に登る
また、本州、四国、九州、中国
に旅行する。
- 1912 慶応義塾法学部予科入学
- 1914 鹿子木員信教授より山岳会設
立を勧められる。日本山岳会
入会 (No.341) 上高地から前
穂高、針ノ木越え、立山、剣岳、
焼岳に登山
- 1915 慶応義塾に山岳会を設立
- 1916 上高地～前穂高～奥穂高～槍ヶ
岳～薬師岳縦走。常念山脈
- 1917 慶応大学法学部法律科卒業
- 1918.1 渡米コロンビア大学留学
プロスペクト山にしばしば登る

槇 有恒(まき ゆうこう) 会員 小原 茂延

■ 「山行」 中公文庫 2012.8

2021 年はアイガー東山稜初登攀から 100 年！



初版は 1923 年改造社、中公文庫は旺文社底本

収録内容

〈登高記〉

1. ヴェッターホルン
2. メンヒよりアイガーへの縦走
3. フィンスターアールホルンよりグロッセ
シュレックホルンへ
4. マッターホルン
5. アイガー東山稜の初登攀
6. マウント・アルバータの登攀

〈山村の人と四季〉

〈板倉勝宣君の死〉

他数篇

- ・登高記の中では、やはりアイガー東山稜登攀の記録に注目した。アイガーは 3975m で形状三角錐をなし、全山石灰岩より成っている。アルプスにおいて先人未登の山頂を極めることは、ウィムパーのマッターホルンの登攀をもって、だいたい終わっていた。その後の登山者に残された問題は前人未踏の山稜から登ることだった。

1919.1 渡欧、ロンドンに渡り大英博物館に遊学、W・ウェストンの知遇を受ける。ベンネビス山他秋スイス、グリンデルヴァルト住

1920 ヴェッターホルン、メンヒからアイガー縦走。フィンスターアールホルン、グロッセシュレックホルン登山

1921 モンテローザ、マッターホルン登山。9 月 9 日にはアイガー東山稜初登攀に成功する。12 月ロンドンでアルパインクラブ晩餐会

1922 3 月槍ヶ岳冬期初登頂

1923.1 立山松尾峠で遭難、同行の板倉勝宣が死亡。夏、秩父宮殿下を燕岳から槍ヶ岳縦走にご案内

1924.5 秩父宮殿下を立山スキーに

1925.7.21 カナディアン・ロッキーのマウント・アルバータ初登頂

1926 秩父宮殿下をアルプス登山にご案内ヴェッターホルン、フィンスターアールホルン、グロッセシュレックホルン、マッターホルン、モンテローザなどに登る。

1929 塩水港製糖株式会社に入社

1931.5 大島適子と結婚

1944 日本山岳会第 4 代会長に就任

1951 同第 7 代会長に就任

1956.2~6 第 3 次日本山岳会マナスル登山隊長 5/9,11 初登頂に成功
仙台市名誉市民、文化功労者

1967.4 日本山岳協会会長に就任

1970.12 アルパインクラブ名誉会員

1989.5.2 心筋梗塞のため死去

この東山稜(ミッテルレギ山稜)をブラヴァンドと呼び案内人のストイリも誘った。更にこの計画でもう 1 人のフュレルとしてアマターを加えた。用品として考案したものがあつた。それは鉤の類で、名人シェンク爺さんに頼み 6 m ばかりの丸太棒の上端に鉤をつけ、下端に 3 本の石突を作り、その 1 本は回転可能にした。この棒により難場を切り抜けた。200m を朝の 9 時から午後の 5 時までかかった。ただ 4 人は固く手を握り合つた。

午後 7 時 15 分前、ついに頂上に立った。日は既に沈みメンヒの頭に近く半月がかかっている。・・・



■「私の山旅」岩波新書 1968 第 1 刷

2002 13 刷

I 章『思い出の日々』から V 章『アイガー東山稜登攀』X 章『夕陽はまだ頂に照る』まで「山行」の内容他を平易に書いている。出身の仙台市の山である泉ヶ岳(300 名山)への想いを含む。

■「横有恒全集 I ~ III」五月書房 1991

第 I 巻『憧憬』

山行、マナスル登頂物語

第 II 巻『情熱』

マナスル通信、ピッケルの思い出、小登山家を送る

第 III 巻『静寂』

山の心、わたしの山旅、山への姿勢、年譜

秋山・冬山のワンポイントアドバイス

理事・日本山岳ガイド協会認定登山ガイドⅡ 平川陽一郎

秋山・冬山のワンポイントアドバイス

秋山の楽しさ、山を染める紅葉・澄み切った展望・下山後の温泉、でしょうか。

紅葉は、9 月下旬からアルプスで始まり、10 月には東北や尾瀬、上信越の山々に、11 月に入ると秩父の山でも紅葉が見頃を迎えます。

そして 11 月からは、アルプスは雪山へと変わってゆきます。

秋山の朝晩は、平地の冬並みの気温に下がる事も多く、宿泊登山では十分な防寒対策が必要です。でも、日中は歩くと暑く汗ばむほどです。

秋山では、1 日の中に四季があると考え衣類準備を行って下さい。特に手袋、帽子、ネックウォーマーの携行をお忘れなく。

10 月のアルプスでは、降雪がある事も珍しくありません。この時期は、出発前 3 日間と登山中の天気は気を付けてください。

備えの無い時の降雪は、大変危険です。

もし登山中に降雪の可能性があれば、迷わず中止する事をお勧めします。

紅葉の山は落葉の山です。色とりどりに足元を染める綺麗な落ち葉ですが、多量に積もってルートを隠したり、一見すると登山道に見える落とし穴を作ったり、雨に濡れると滑りやすくなってしまいます。そして、降雪の無い冬の山では登山道の凍結を落ち葉が隠しています。日照時間は、夏と比べると昼の時間は 3 時間程度短くなります。登山計画を組む場合は、安全のために日のある 15 時までに下山を設定することをお勧めします。



新入会員 自己紹介

事務局長 林 信行

《那須 朋美さん 会員番号 16808 》

この度入会させていただきました埼玉県久喜市在住の那須朋美です。

登山経験は 10 年程ですが、近隣の山中心に登っているので行ってみたい山、行ったことのない山はたくさんあります。

会に入らせていただいたのは、経験豊かな皆様の教えを乞いながら、楽しく技術と体力をつけて私自身レベルアップをはかりたいと思ったからです。

沢登りや岩登りにも参加したいです。

今はまだ勤めもありますので、1 泊 2 日の日程でしか動けないことも多いのですが、後々は 4 泊 5 日や 5 泊 6 日で雲ノ平や白峯三山に行くことを夢見ています。

山行委員会にも入らせていただいたので積極的に活動していきますのでよろしくお願いします。

《皆山 京子さん 準会員番号 A0379 》

はじめまして。

6 月に埼玉支部に入会させて頂いた皆山京子と申します。

よろしくお願いいたします。

4 年間、山から遠ざかっていましたが、今年春から秩父の低山を歩き始めました。

登山歴は 7 年位ですが、未だ初心者レベルです。行きたい山も沢山あります。

自立した登山者を目指して、ステップアップしていきたいと思っています。

どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

《三國 志保さん 準会員番号 A0392 》

はじめまして。7 月よりお世話になります三國志保と申します。岩手県盛岡市出身で、登山歴は 20 年ほどになりますが、アクティブに登っているわけではなく、登れる時に登るスタンスで山を楽しんでいます。転職を機に 2018 年より坂戸市に住んでおります。新たな環境で登山を通じて人とのつながりを広げ、ここでの生活を良いものにしたいと思い、入会いたしました。

今までに登った山は、旭岳、岩手山、浅間山、燕岳、天狗岳、妙義山、荒船山、甲武信ヶ岳、八丈富士、縄文杉トレッキング、白谷水雲峡トレッキングなどです。海外ではスイスアルプス、テーブルマウンテン、キリマンジャロ、ゴーキョピークなどです。今後は、関東近隣の山々と、立山、北アルプス、早池峰山、熊野古道などに行ってみたいと思っています。お声をかけさせていただきますので、スケジュールがあれば一緒に登りに行きましょう。登山以外では旅、世界遺産巡り、スキー、映画鑑賞、ガーデニングなどを楽しむのが好きです。よろしくお願いします。

事務局からのお知らせ

事務局長 林 信行

I.

埼玉支部会員 在籍者数及び異動

2021 年 10 月 1 日現在

会員	125 名	準会員	12 名	計	137 名
----	-------	-----	------	---	-------

【入 会】

会 員			準会員		
16808	那須 朋美 (久喜市)	6 月	A0379	皆山 京子 (熊谷市)	6 月
			A0392	三國 志保 (坂戸市)	6 月

【退 会】

会 員			準会員		
12149	熊本 道夫	7 月			

II.

埼玉支部会員の状況 (2021.8) 高橋 努会員調べ

		2017.3	占率	2021.7	占率	変化
男女別	男性	114	85%	103	74%	-11
	女性	20	15%	36	26%	16
	合計	134		139		5
平均年齢		69.6歳		68.6歳		-1
年代別	80歳以上	21	16%	33	24%	12
	70歳以上	49	37%	44	32%	-5
	60歳以上	44	33%	26	19%	-18
	50歳以上	13	10%	21	15%	8
	50歳未満	7	5%	15	11%	8
	合計	134		139		5
居住地別	埼玉県在住	124	93%	120	86%	-4
	東京都在住	5	4%	10	7%	5
	他県在住	5	4%	9	6%	4
特徴	全体では5名増加と微増である(2017年当時の会友11名は制度廃止で0となった) 女性比率が11%上がり26%となった 4年間で平均年齢は1歳下がった 60歳未満(本部のユース)が36名(26%)と増加した 80歳以上が33名(24%)と12名増加した 埼玉県外在住者が増加し13%となった。					

Ⅲ. お願い・お知らせ

■ 登山届の提出について

日本山岳会では会員・準会員に対し個人山行時に「登山届」の提出が義務付けられています。

必ず山行の際には事務局 林まで提出してください。当方より本部遭難対策委員会に転送致します。

送り先：支部事務局 mail：takenoko001@gmail.com ⇒本部 遭難対策委員会
FAX：049-289-1128

■ 埼玉支部山行グレードについては山行の際、以下の基準を参考にしてください。

※あくまでも会員が参加する場合の目安としています。

- ☆ 行程 3～4 時間 一般向けハイキングコース
- ☆+ 行程 5～6 時間 一般向けハイキングコース
- ☆☆ 行程 7～8 時間 一般向け登山コース
- ☆☆☆ 行程 9～10 時間健脚向け登山コース、岩登り、沢登り、雪山

■ 2021 年度分の支部会費が未納のかたがあります。

下記口座へお振込みください。

(1)会費：① 会員 2,000 円 ② 家計を同じくする者一人 1,500 円

(2) 払い込み先：郵便局 口座記号 00140-7-口座番号：374281

加入者名：公益社団法人日本山岳会埼玉支部

(3)お問い合わせ：会計担当 轟 涼 mail：ryo-tod817@ezweb.ne.jp

TEL：080-5455-7216

【編集後記】

暑かった夏も過ぎ秋の日差しが心地よく感じられる候となりました。

あれほど猛威を振るったコロナも不思議なほど下火となり緊急事態宣言も解除されお出かけしたい気持ちになられた方も多いと思います。

しかし油断は禁物。いつ第 6 波がやって来るかもしれません。用心しつつ日々の生活を大切に、山も楽しんでいきましょう。

皆様が健康で元気な毎日を過ごされるよう念じています。

10 月初めに笠ヶ岳で出逢った雷鳥の親子は羽がもう半分白くなっていました。

- 喘ぎつつ岩を攀れば目の前に雷鳥親子羽白くして - 橋本

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第 34 号 2021 年 11 月 15 日発行

発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部 支部長 大山光一

事務局：350-0201 埼玉県坂戸市赤尾 1910 林信行方

電 話：080-2256-4829 Email: stm@jac.or.jp

埼玉支部ホームページ：<http://www.jac.or.jp/saitamasibu/index.html>